



enfocus
CONNECTOR¹²

ユーザーガイド

目次

| | |
|---------------------------------------|----------|
| 1. 著作権 | 3 |
| 2. Connectorの使用 | 4 |
| 2.1 Enfocus Connectorの使用..... | 4 |
| 2.1.1 Enfocus Connectorの設定..... | 8 |
| 2.1.2 Enfocus Connectorへのファイルの送信..... | 11 |
| 2.1.3 追加情報の入力..... | 14 |
| 2.1.4 ファイルの進行状況のチェック..... | 16 |
| 2.1.5 プリフライト結果の検証..... | 18 |
| 2.2 Connector環境設定の設定（オプション）..... | 19 |
| 2.2.1 Connector環境設定 - 全般..... | 19 |
| 2.2.2 Connector環境設定 - Eメール..... | 20 |
| 2.2.3 Connector環境設定 - プロキシ..... | 20 |
| 2.2.4 Connector環境設定 - フォルダの配信..... | 21 |
| 2.3 トラブルシューティング..... | 21 |

1. 著作権

© 2014 Enfocus BVBA all rights reserved. Enfocus は、Esko の子会社です。

Certified PDF は Enfocus BVBA の商標であり、特許出願中です。

Enfocus PitStop Pro、Enfocus PitStop Workgroup Manager、Enfocus PitStop Server、Enfocus Connect YOU、Enfocus Connect ALL、Enfocus Connect SEND、Enfocus StatusCheck、Enfocus CertifiedPDF.net、Enfocus PDF Workflow Suite、Enfocus Switch、Enfocus SwitchClient、Enfocus SwitchScripter、および Enfocus Browser は Enfocus BVBA の製品名です。

Acrobat、Acrobat、Distiller、InDesign、Illustrator、Photoshop、FrameMaker、PDFWriter、PageMaker、Acrobat PDF Library™、Adobe ロゴ、Acrobat ロゴ、および PostScript は、Adobe Systems Incorporated の商標です。

Datalogics、Datalogics ロゴ、PDF2IMG™、および DLE™ は Datalogics, Inc. の商標です。

Apple、Mac、Mac OS、Macintosh、iPad および ColorSync は、米国およびその他の国における Apple Computer, Inc. の商標です。

Windows、Windows 2000、Windows XP、Windows Vista、Windows 7 および Windows 8 は、Microsoft Corporation の登録商標です。

ここで表示される PANTONE® カラーは PANTONE 認定基準に沿わない場合があります。正確なカラーについては最新の PANTONE カラー パブリケーションをご覧ください。PANTONE® およびその他の Pantone, Inc. の商標は Pantone, Inc. の所有物です。©Pantone, Inc., 2006

OPI は Aldus Corporation の商標です。

Monotype は米国特許商標庁に登録された Monotype Imaging Inc. の商標であり、特定の管轄地域で登録されている場合があります。Monotype Baseline は Monotype Imaging Inc. の商標です。

Quark、QuarkXPress、QuarkXTensions、XTensions、および XTensions ロゴは、Quark, Inc. および全ての該当する提携企業の米国特許商標庁登録済みの商標(Reg. U.S. Pat. & Tm. Off)およびその他多くの国における商標です。

本製品およびその使用に関しては Markzware より米国特許第 5,963,641 号に基づく許諾を受けております。

その他のブランド名や製品名も、各所有権者の商標または登録商標である可能性があります。製品やサービスの全ての仕様、用語および説明は、事前の通知や助言なしに変更される場合があります。

2. Connectorの使用

ConnectorはConnectから作成するスタンドアロンのアプリケーションです。Connectorには、ユーザがConnectorプロジェクトで定義するすべての機能が含まれています。ジョブチケットのキャプチャ、PDF作成、PDFプリフライト、および任意のファイルのリモートサーバへの配信が可能です。Connect ALL/SENDではConnectorを内外のユーザに配布するようにすることができます。一方、Connect YOUでは1つのワークステーションのみで実行可能なConnectorが生成されます。

Enfocus Connectorの設定に関する質問については、Connectorの製造元に問い合わせください。

2.1 Enfocus Connectorの使用

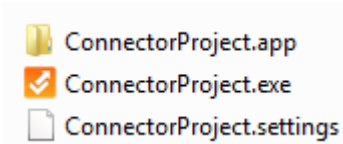
Connectorの使用は非常に簡単です。

高レベルの概要については、以下をご確認ください。各ステップについて、より詳細に説明されています。

1. Connectorを次のように設定します。

- (必要に応じて) Connectorをダウンロードしたり (Macでは.app、Windowsで.exe) ローカルハードドライブ上の場所を特定したりします。
- Connectorアプリケーションをダブルクリックして、起動します。仮想プリンタまたはプラグインサポートが有効の場合、これらのサービスをインストールするよう求められます。

「[Enfocus Connectorの設定 8 ページの](#)」を参照してください。



2. 次の操作で、1つ以上のファイルをConnectorに送信します。

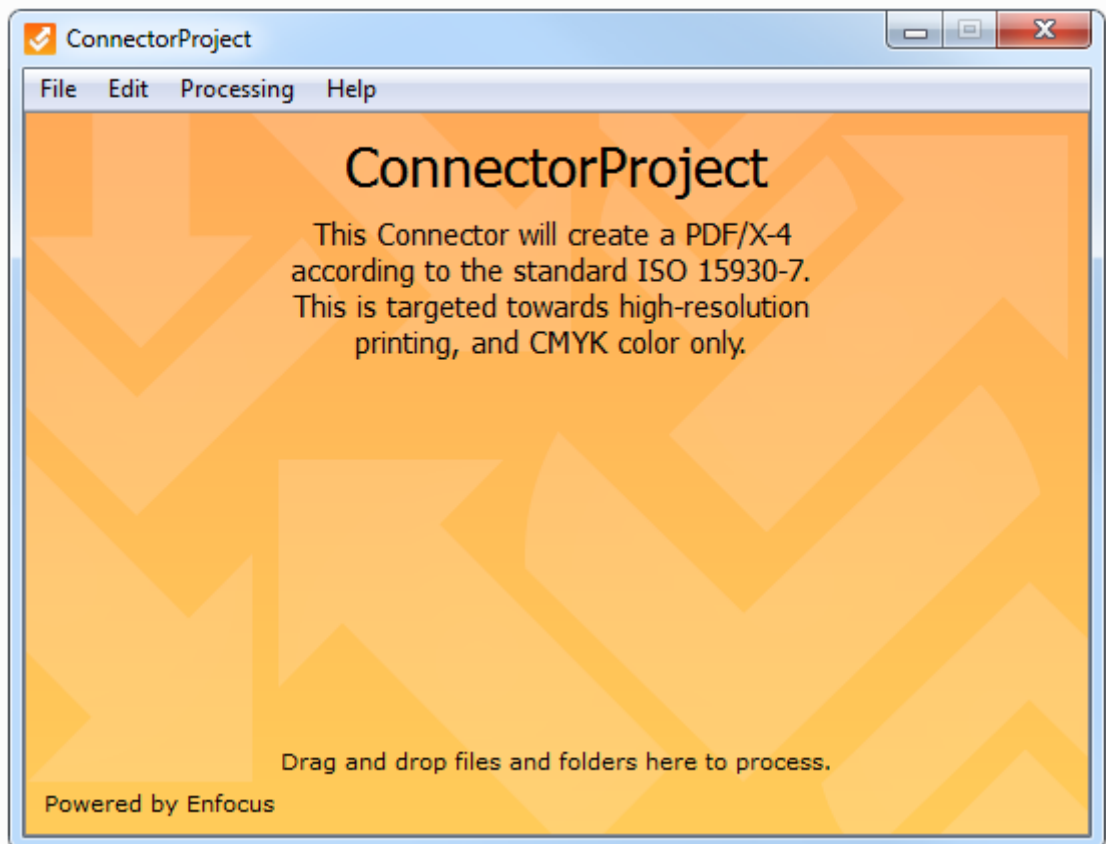
- ファイルまたはフォルダをドラッグアンドドロップ
- (設定されている場合は) 印刷を実行、または
- (設定されている場合) プラグインから書き出し

これらの操作を、Connectorアプリケーションのアイコン上、またはConnectorウィンドウ内に行うことで、処理が開始します。



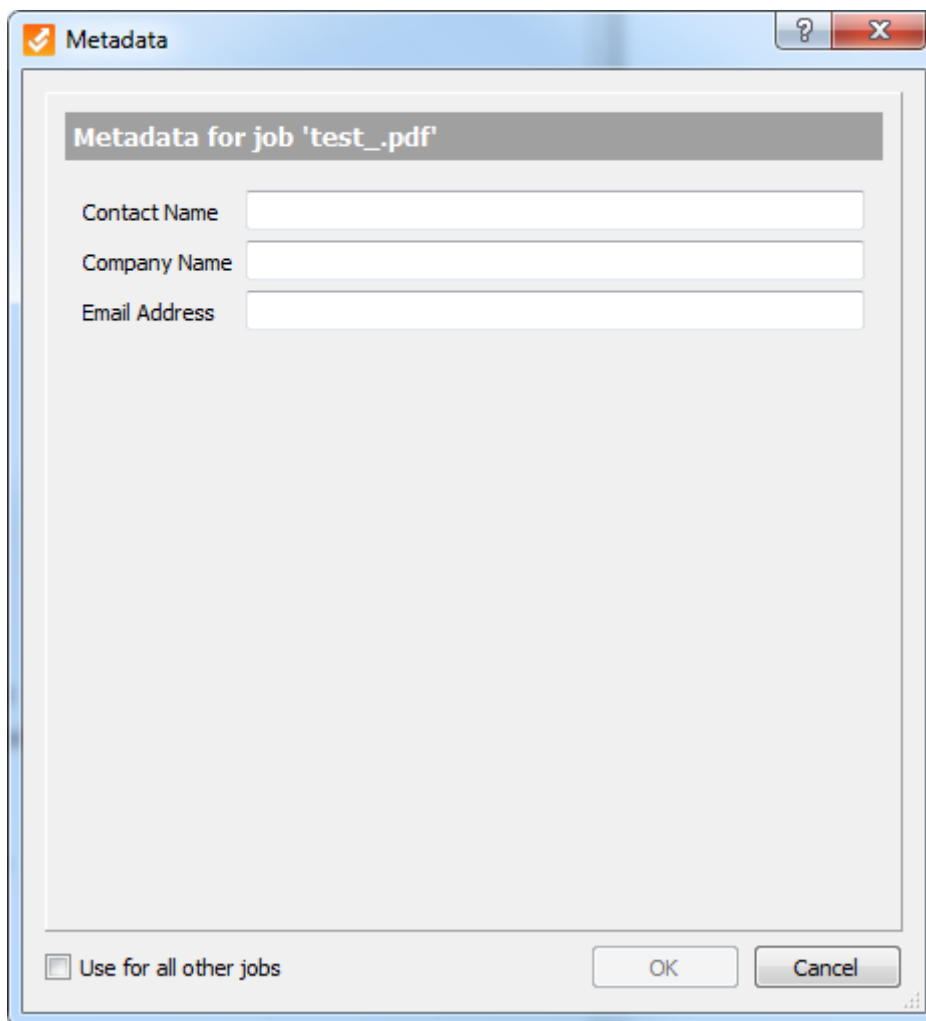
注: Connectorに配信ポイントのために定義されたローカルディレクトリがある場合、送信先のフォルダを選択するよう求められます。

「[Enfocus Connectorへのファイルの送信 11 ページの](#)」を参照してください。



3. Connectorの設定に応じて、1つ以上のダイアログがポップアップ表示され、サーバへの配信のための認証情報やジョブ関連の情報（所属する会社名、メールアドレスなど、詳しくはスクリーンショットを参照などの）追加情報の入力が必要と求められる場合があります。ジョブ関連のデータ（メタデータ）は処理済みジョブとともに（バックグラウンドで）XML、TXTまたはCSVファイルとして送信され、ジョブチケットと呼ばれるものになります。

「[追加情報の入力 14 ページの](#)」を参照してください。



Metadata

Metadata for job 'test_.pdf'

Contact Name

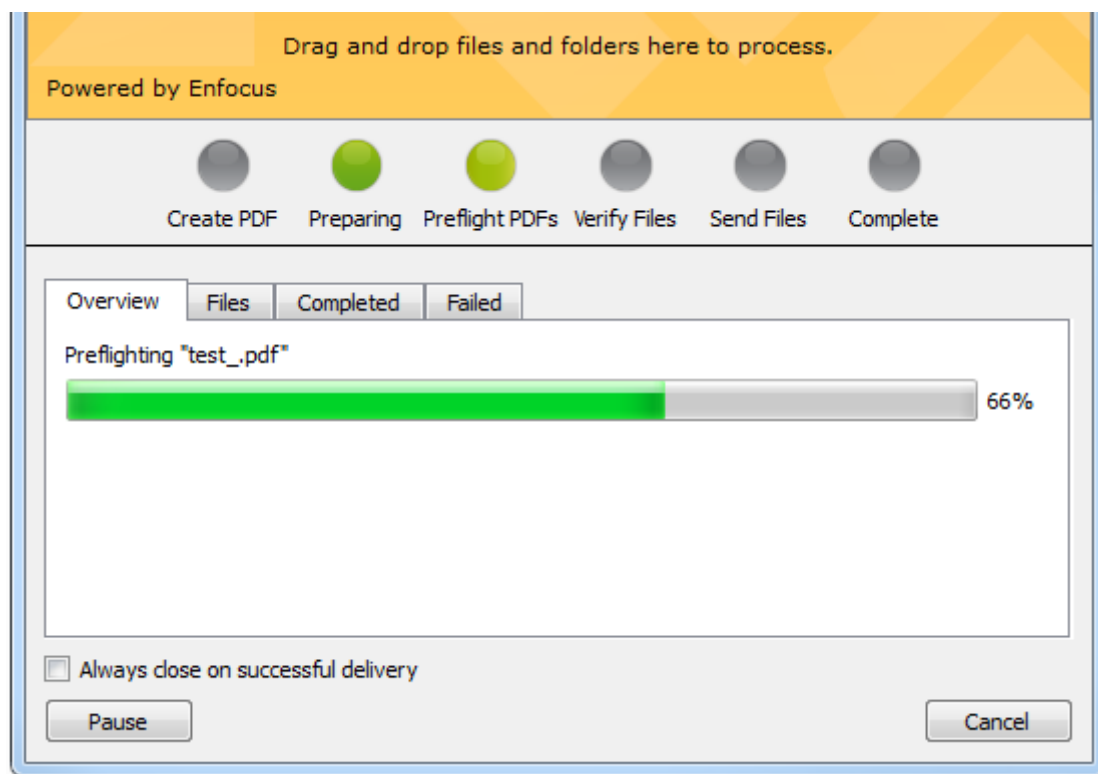
Company Name

Email Address

Use for all other jobs

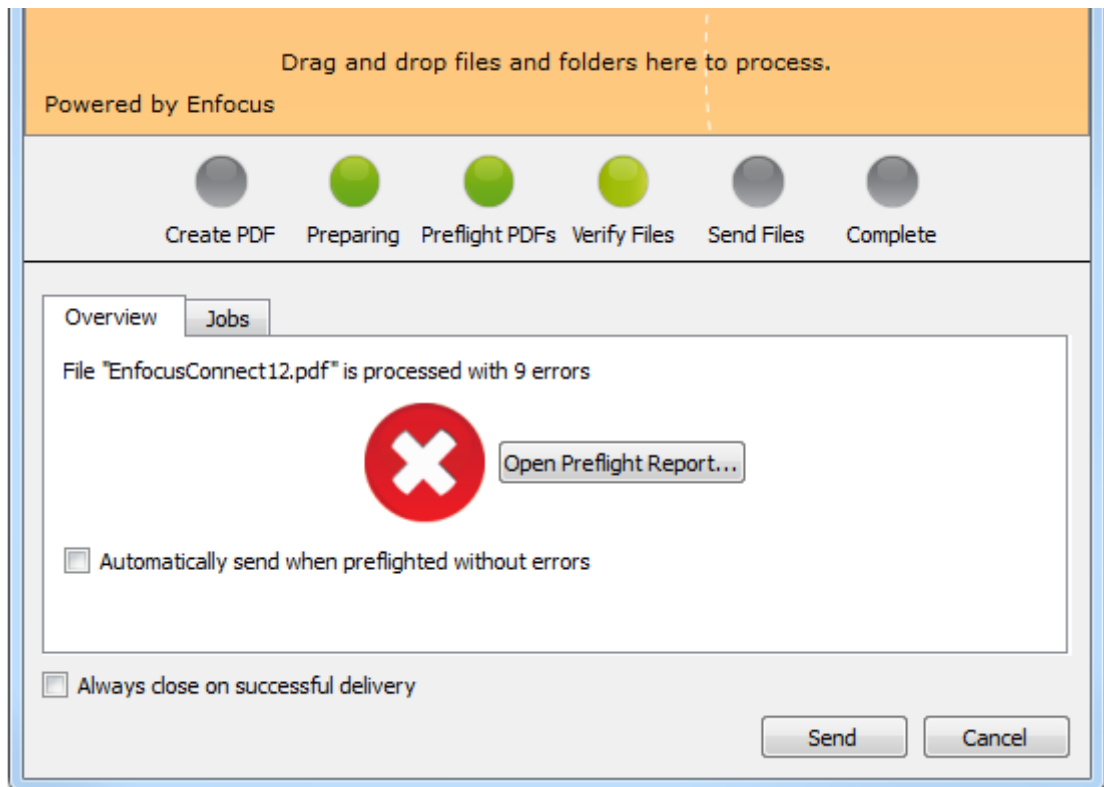
OK Cancel

4. メインのConnectorウィンドウの下部で、ファイルの進行状況をチェックします。
「[ファイルの進行状況のチェック](#) 16 ページの」を参照してください。



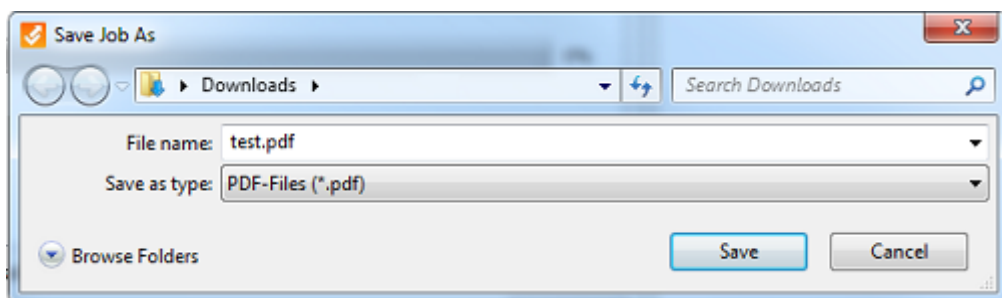
5. ConnectorがPDFファイルをプリフライトおよび検証するように設定されている場合、プリフライトの結果が表示されます。（Connectorの作成者がこの機能を無効にしていない限り）ユーザによってプリフライトレポートを再確認する機会が得られます。

「[プリフライト結果の検証 18 ページの](#)」を参照してください。



Connectorの設定によって、処理済みファイルは自動的に配信されます。または、ローカルファイル保存が有効になっている場合は、ファイルを保存するように求められます。ファイルの保存先として、前回「名前を付けて保存」ボタンが表示されたときのものが記憶されています。

以下のスクリーンショットは、処理されたファイルをローカルで保存することになる場合に表示されるダイアログです。



2.1.1 Enfocus Connectorの設定

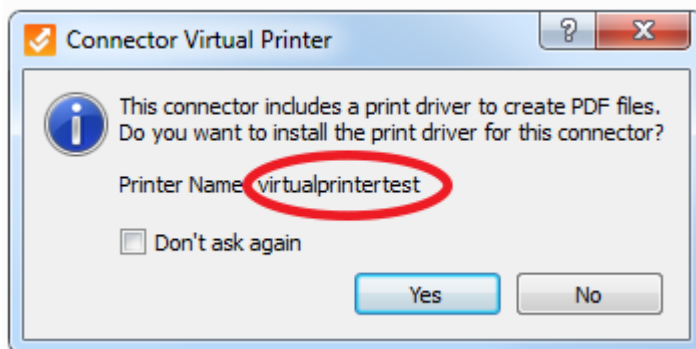
Enfocus Connectorを設定する手順

1. Enfocus Connectorをご使用のコンピュータ上の任意の場所にダウンロードまたは作成します。

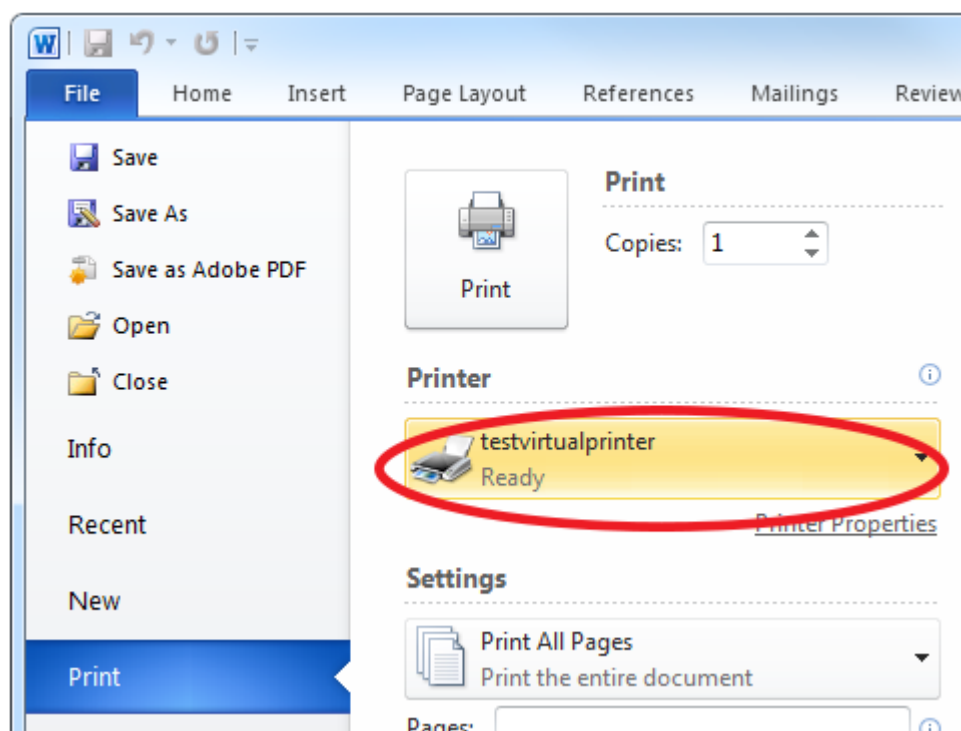
2. Enfocus Connector (.exe または .app) をダブルクリックして、使用を開始します。
3. Connectorに仮想プリンタがある場合、Connectorは初回起動時にプリントドライバをインストールするよう提案します。【はい】をクリックします。

仮想プリンタでは、任意のアプリケーションから直接Connectorにファイルを印刷することが可能です。Connectorに含まれているプリントドライバをインストール済みの場合、使用するアプリケーションのプリンター一覧にConnectorのプリンタ名が表示されます。

下の例では、プリンタ名は*virtualprintertest*です。



この名前は、Microsoft Wordなどの使用するアプリケーションのプリンター一覧に表示されます。

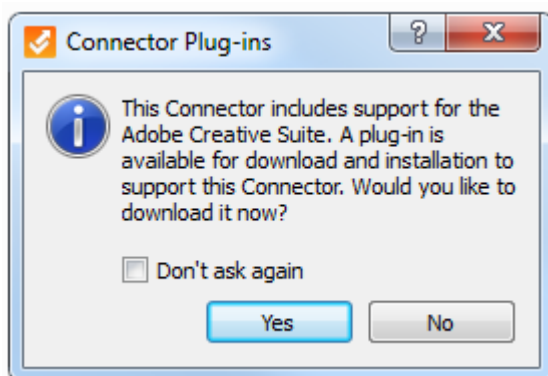


注:

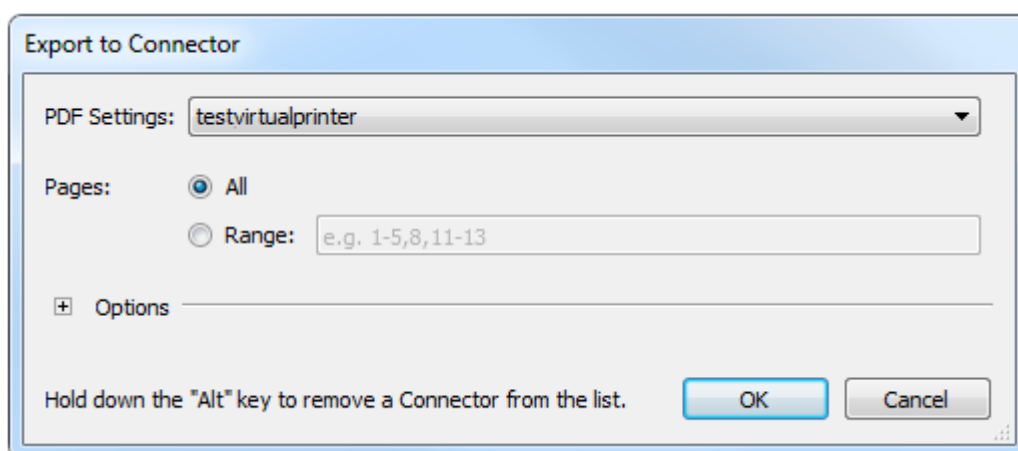
- 仮想プリンタがインストールされている場合、プラグインサポート（次のステップを参照）を常に利用できますが、プラグインのダウンロードおよびインストールについての通知が得られない場合があります（これはConnectorプロパティに依存します）。
- Enfocus Connectorをアンインストールするには、コンピュータから Connectorを削除するだけで済みます。仮想プリンタは他のプリンタと同様に削除できます。

4. Connectorが【プラグインダウンロード】を有効化するよう設定されている場合（また、プラグインが未インストールの場合）、Connectorは操作手順とダウンロードおよびインストールが可能なプラグインの一覧が掲載されているWebサイトへのリンクを提供します（これはConnectorプロパティに依存します）。【はい】をクリックして、画面の指示に従います。

プラグインサポートは、Adobe InDesignやAdobe Illustratorなどの特定のサードパーティ製アプリケーション内から、それらの内部PDF書き出し機能によってPDFファイルを作成し、追加処理のために直接Connectorに送信できます。



たとえば、InDesign用のプラグインをインストール済みの場合、InDesignで、[ファイル]メニューから【Connectorに書き出し】などの追加オプションが使用できるようになります。このオプションをクリックすると、次のダイアログが表示されます。



Connectorを使用できる準備が整いました。

2.1.2 Enfocus Connectorへのファイルの送信

次の方法でファイルを送信できます。

- ファイルまたはフォルダをConnectorアイコン上に、またはConnectorウィンドウ内にドラッグアンドドロップします。「[Enfocus Connectorへのファイルの手動送信](#) 11 ページの」を参照してください。
- 仮想プリンタがConnector用にインストールされている場合、ファイルを他のアプリケーションから直接Connectorに印刷できます。「[Connectorへのファイルの印刷](#) 11 ページの」を参照してください。
- プラグインサポートがConnectorに対して有効になっている場合（デフォルトではPDF作成が有効になっていた場合）、別のアプリケーションからファイルを書き出した後、Connectorに直接送信することができます。「[プラグインサポートの使用によるファイルの送信](#) 12 ページの」を参照してください。



注: ジョブチケットの配信がConnectorで有効になっている場合、ジョブを送信せずに、ジョブチケットを配信することが可能です。「[ジョブチケットのみの配信](#) 13 ページの」を参照してください。

Enfocus Connectorへのファイルの手動送信



注: 複数のファイル（PDFまたは非PDF）を一度に送信することができます。複数のファイルがあるフォルダも一度に送信可能です。

Connectorにファイルを送信する手順

次のいずれかを実行します。

- ConnectorメインウィンドウまたはConnectorアイコンにファイルおよび/またはフォルダをドラッグアンドドロップします。
- Connector ウィンドウで [ファイル] > [ドロップ] を選択して送信するファイルを選択します。

複数のファイルを選択するには、選択を行っている間、**Ctrl**キーを押し続けます。



注: Connectorの作成者は、PDFファイルだけを許可するように制限できます。この制限が有効な場合、PDF以外のファイルを送信すると、エラーメッセージが表示されます。

Connectorへのファイルの印刷

Connector用の仮想プリンタをインストール済みである場合（[Enfocus Connectorの設定](#) 8 ページのを参照）、ご使用のシステム上の任意のアプリケーションからConnectorにファイルを印刷できます。印刷されたファイルは、Connectorで定義された仕様に従って、PDFに変換されます。

これにより、ファイルの作成や設計に使用したアプリケーションから直接ファイルを印刷できるため、時間を節約できます。

Connectorにファイルを印刷する手順

1. 関係するアプリケーションを開きます。
2. Connectorに送信するファイルを開きます。
3. [印刷] ダイアログを開きます。
4. [プリンタリスト]から、Connector用としてインストールされている [仮想プリンタ] の名前を選択します。
5. [印刷] をクリックします。
仮想プリンタはPostScriptファイルを作成し、Adobe NormalizerでPDF以外のファイルに変換してから、Connectorに送信します。Connectorのメインウィンドウが自動的に開きます。

Connectorの設定に応じて、追加情報の入力やプリフライトの結果の検証がユーザに対して求められます。

プラグインサポートの使用によるファイルの送信

ConnectorにPDF作成が含まれている場合、InDesignまたはIllustratorからPDFファイルを作成できます（プラグインをインストール済みの場合）。また作成したファイルを直接Connectorに送信できます。「[Enfocus Connectorの設定 8 ページの](#)」を参照してください。

InDesignまたはIllustratorでプラグインを使用すると、Connectは [書き出し] 機能を利用して、透過性などの特殊機能をサポートするようにすることができます。また、プラグインを使用することによって、トンボやブリードなどの設定に直接アクセスできるようになります。

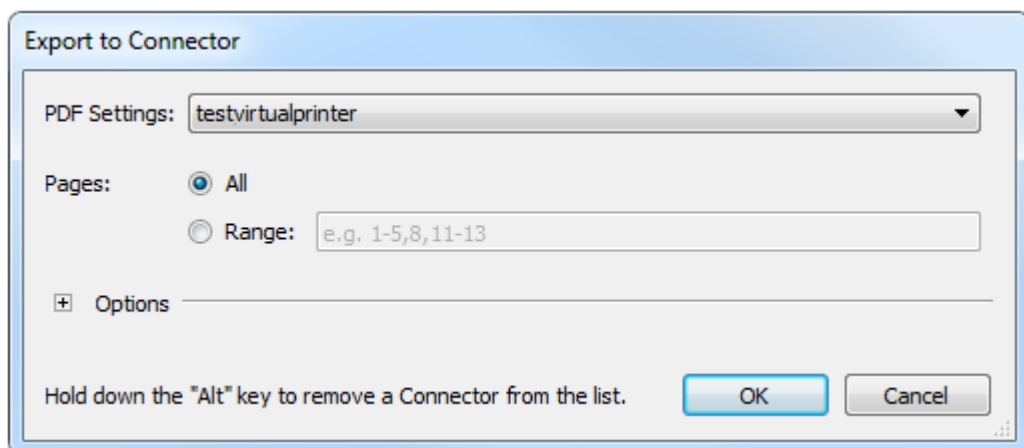
プラグインサポートを使用してファイルを送信する手順

1. Adobe InDesignなどの関係するサードパーティ製アプリケーションを開きます。
2. Connectorに送信する必要があるドキュメントを開きます。
3. [ファイル] > [Connectorに書き出し] を選択します。



注: このオプションは、サードパーティのプラグインがインストールされている場合にのみ使用できます。


[Connectorに書き出し] ダイアログが表示されます。



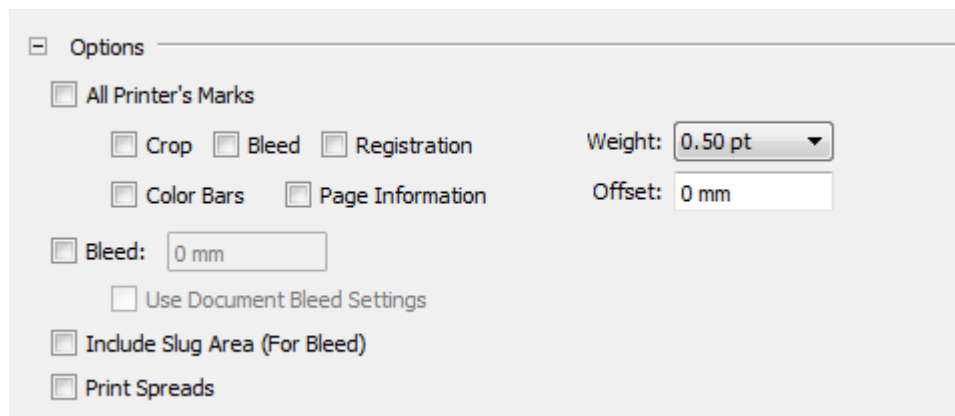
4. **[PDF設定]** ドロップダウンで、ファイルの送信先のConnectorの **[PDF設定名]** を選択します。



注: PDF設定名をサードパーティ製アプリケーションの **[PDF設定]** リストから削除する場合は、PDF設定リストで選択し、Altキーを押し続けます。**[OK]**ボタンが**[削除]**に変わります。このボタンをクリックすると、現在選択されている設定名はリストに表示されなくなります。

5. どの **[ページ]** が書き出されるかを指定します。
- 文書全体を書き出すには、**[すべて]** を選択します。
 - 文書の一部のみを書き出すには、**[範囲]** を選択してページの範囲（1-5など）を定義します。
6. 使用可能な場合、 をクリックして、**[オプション]** セクションを展開するか、適切な設定を選択します。

このセクションが使用可能になるかどうかは、コンフィギュレータの設定に応じて変わります。これらのオプションが使用できない場合、Connectorで定義されたPDF設定が使用されます。



7. **[OK]** をクリックします。

アプリケーションの書き出し機能を使用してファイルがPDFとして書き出されます。プラグインによってバックグラウンドでPDFが作成されると、直接Connectorに送信され、プリフライトや配信などの追加処理が行われます。Connectorのメインウィンドウが自動的に開きます。

ジョブチケットのみの配信

Connectorがジョブチケットを配信するよう設定されている場合、ジョブを送信せずにジョブチケットを起動して配信することができます。これは、新規レコードの作成や、MISまたは他のジョブ追跡システムでの既存のレコードの修正に役立ちます。Connectorはジョブチケットを、別のデータベースシステムで抽出して処理することが可能な、定義済みのフォルダまたはサーバに送信します。



注: Connectorプロパティで、ジョブチケット、およびジョブチケットの配信をサポートする配信ポイントが、ジョブチケットのみの配信を有効にするよう定義されている必要があります。Connectorがジョブチケットのみの配信をサポートしていない場合、[ファイル] > [ジョブチケットの送信] オプション（この手順のステップ1を参照）は無効になります。

ジョブチケットを配信する手順

1. Connectorのメインウィンドウで、[ファイル] > [ジョブチケットの送信] をクリックします。



注: また、Ctrl+J (Windows) またはCmd+J (Mac) のショートカットキーを使用することもできます。

[メタデータ] ダイアログがポップアップ表示されます。

2. 必要な詳細情報を入力します。



注: このConnectorに送信されるすべてのジョブに対して同じ値を使用する場合は、[その他のジョブに使用する] チェックボックスを選択します。

3. **[OK]** をクリックします。
ジョブチケットが正常に配信されたことを伝えるダイアログが表示されます。
4. ダイアログを閉じるには **[OK]** をクリックします。

2.1.3 追加情報の入力

Connectorにファイルを送信するときに、追加情報を入力するように指示される場合があります。

Connectorの作成者がConnectorの設定で必要とされる情報および方法を定義しています。一部の情報は必須で、それらの情報が入力されていない場合、Connectorが停止します。

ダイアログボックスが表示される場合があります。

1. ファイル配信の設定

複数のファイルを送信済みの場合、[ファイルの配信] ダイアログがポップアップ表示されます。

次の情報を入力します。

- ファイルが別個のジョブとして処理されるか1つのジョブとして処理されるかを指定します。
1つのジョブとして送信されると（Connectorでジョブチケットが有効になっている場合）、1つのジョブチケットのみが表示されます。別個のジョブとして送信すると、ユーザは処理された各ファイルについてジョブチケットを取得します。
- ファイルを1つのジョブとして処理することを選択した場合は、ジョブの名前を入力します。

名前を入力しないと、リスト内の最初のファイルの名前が使用されます。処理されたファイルは、この名前のzipファイルに圧縮されます。

- このダイアログでの設定どおりにすべてのファイルが処理されるようにするには、[常にこれらの設定を使用する] を選択します。

ダイアログが次回にポップアップ表示されると、選択された設定（別個のジョブまたは1つのジョブ）がデフォルト設定になります。

2. フォルダの配信設定

Connectorがファイルをローカルフォルダに配信するように設定されている場合、処理済みファイル用のプライマリ（およびオプションとしてセカンダリ）の出力フォルダを選択するよう求められます。選択したフォルダの設定は、ファイルをConnectorに初めて送信するときなどに、1回だけ行う必要があります。設定の変更は、後で [Connector環境設定] で行うことができます（ [編集] > [環境設定] > [フォルダの配信] を選択）。

- ## 3. ジョブチケット（メタデータ）
- この場合、[メタデータ]ダイアログがポップアップ表示され、ジョブの追加情報を入力できます。必要な値を入力し、**[OK]**をクリックします。

ダイアログの内容はConnectorの作成者によってカスタマイズ可能で、ここで示される内容とは異なります。



注: このConnectorに送信される他のすべてのジョブに対して同じ値を使用する場合は、[その他のジョブに使用する] チェックボックスを選択します。

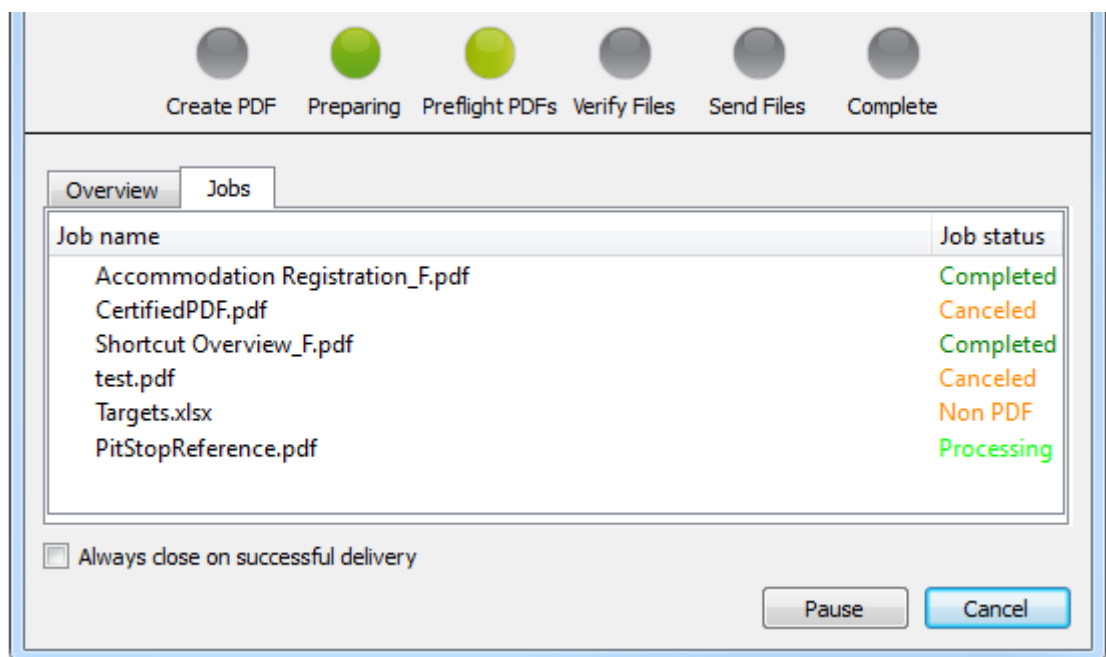
4. ファイル転送のログオン情報。配信サーバ用のユーザ名および/またはパスワードがConnectorで定義されていない場合、これらの認証情報を入力するよう求められます。ログオン認証情報が埋め込まれている場合、入力はありません。

2.1.4 ファイルの進行状況のチェック

ファイルをConnectorに送信したら、Connectorのメインウィンドウの下部に処理中のファイルに関する情報が表示されます。

- グレー/緑色の円は、ファイルが通っている別個のステップを示すものです。ファイルが処理中の場合、現在のステップが点滅表示されます。
- 処理中のファイルに関する情報は、2つのタブで示されます。
 - 概要タブには、現在のステップ情報、プリフライト情報（該当時）などが表示されます。

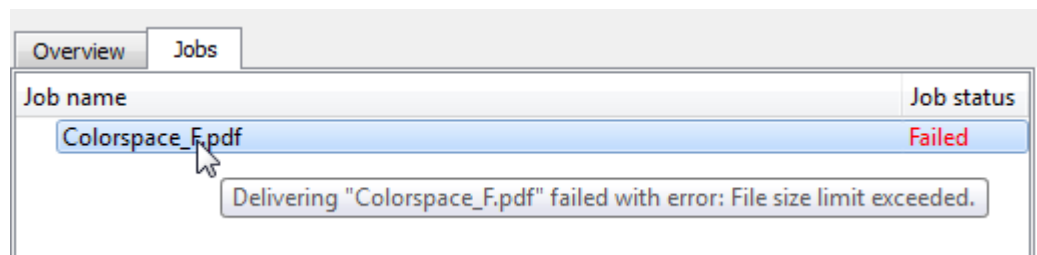
- ジョブタブには、次のような、Connectorのすべてのアクティブなファイルとステータスが表示されます。
 - 完了: ジョブが正常に処理され配信された場合に表示されます。
 - キャンセル: ジョブが手動でキャンセルされた場合に表示されます。
 - 処理中: ジョブが現在処理中の場合に表示されます。
 - 失敗: 許容されているファイルサイズを超過したなど、何かの理由でジョブを処理または配信できなかった場合に表示されます。



- ファイルが正常に配信されると、多くの場合、それらをチェックする必要はありません。[配信が完了したら必ず閉じる] チェックボックスをオンにすると、Connectorのウィンドウはファイルの配信後に自動的に閉じます。[プロセス] メニューからこのオプションを有効または無効にすることもできます。
- [キャンセル] ボタンを使用してアクティブジョブの処理を停止することができます。その場合、アクティブジョブ（現在処理中のファイル）のみをキャンセルするか、キューにあるすべてのジョブ（Connectorに送信されたすべてのジョブ）をキャンセルするか、選択可能になります。
- [一時停止] ボタンを使用すると、処理を数分間停止できます。停止すると、[一時停止] ボタンは [再開] ボタンに変わります。ジョブを続行するには、[再開] をクリックします。



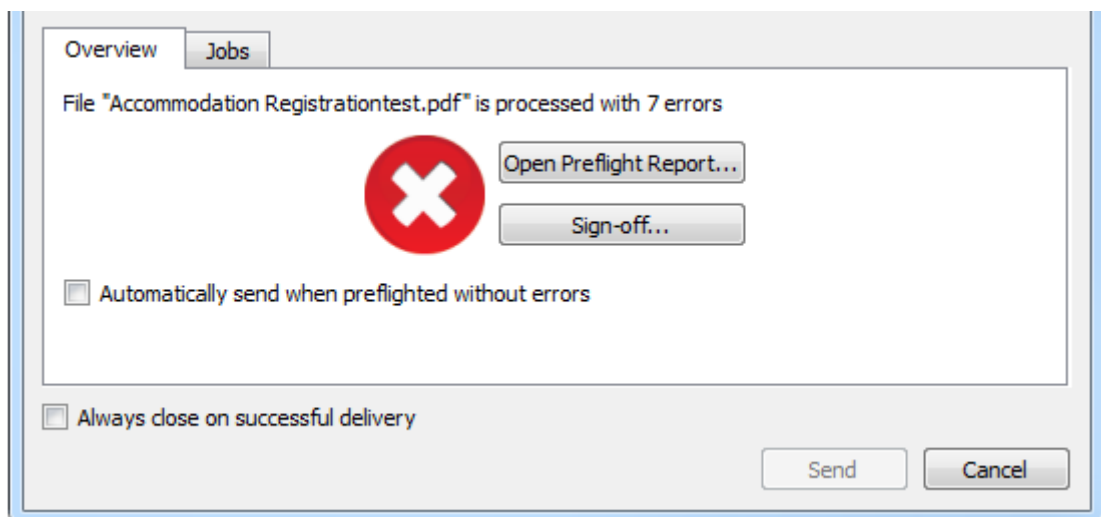
ヒント: ジョブがなぜ失敗したかを知るには、ジョブの名前の上にマウスを移動して、ツールチップを確認します。



2.1.5 プリフライト結果の検証

PDF プリフライトがConnectorで有効になっている場合、ConnectorはEnfocus PitStopの技術を使用して、処理中のPDFファイルの設定および他の要素の検証を行います。チェック項目の設定はConnectorの作成者によって行われ、100以上の品質チェックを含めることができます。

プリフライト検証が有効でない場合、プリフライトが発生しても、Connectorはユーザの検証のために一時停止しません。



- プリフライトレポートを表示するには、[プリフライトレポートを開く] ボタンをクリックします。
- 特定のエラーについてサインオフするには、[サインオフ] ボタンをクリックします。



注:

- [サインオフ] ボタンは、プリフライトプロファイルで設定されていて、Connectorの作成者が許可している場合にのみ使用可能です。
- エラーについてサインオフすると、そのエラーは警告として扱われ、ファイルが正常にプリフライトされるのを妨げないようになります。これは便利な機能で、ドキュメントの作成者がエラーの状態を承認したり、エラーの追加情報のやり取りを行うことが可能になります。

1. [サインオフ] ボタンをクリックします。[サインオフ] ウィンドウが開きます。

2. サインオフをクリックして、すべてのエラーを一度にサインオフします。必要に応じて、サインオフの理由を入力します。
 3. リストで1つ以上のエラーを選択し、選択項目をサインオフをクリックし、選択したエラーだけをサインオフします。必要に応じて、サインオフの理由を入力します。
- ファイルがエラーなしでプリフライトされた場合に [ファイルの検証] ステップをスキップするには、[エラーなくプリフライトされた場合、自動的に送信] を有効にします。この機能は、[プロセス] メニューから有効にすることもできます。
 - ファイルを配信するには、[送信] ボタンをクリックします。



注: Connectorでプリフライトを通過したPDFファイルのみの配信が許可されている場合、ファイルにエラーがあると、[送信] ボタンが無効になります。最初にエラーをサインオフするか、[キャンセル] をクリックし、ファイルのエラーを訂正してファイルを再送信します。

2.2 Connector環境設定の設定 (オプション)

Enfocus Connectorのユーザとして、環境設定の数を設定することもできます。

Connectorの環境設定を行う手順

1. Connectorのメインウィンドウで、[編集] > [環境設定] を選択します。
2. [ユーザ環境設定] ダイアログで、適切なカテゴリを選択します。
 - 全般
 - Eメール
 - プロキシ
 - フォルダの配信

対応する環境設定がダイアログの右側に表示されます。

3. 必要に応じて環境設定に入力します。
次の説明を参照してください。
 - [Connector環境設定 - 全般](#) 19 ページの
 - [Connector環境設定 - Eメール](#) 20 ページの
 - [Connector環境設定 - プロキシ](#) 20 ページの
 - [Connector環境設定 - フォルダの配信](#) 21 ページの
4. [OK] をクリックします。

2.2.1 Connector環境設定 - 全般

次の表では、カテゴリ [全般] におけるConnectorのユーザ環境設定の概要を示します。

| 環境設定 | 意味 |
|---------|---|
| 通知をリセット | このオプションは、プラグインのダウンロードや、仮想プリンタのインストールを求めるメッセージなど、あらゆる警告をリセットします。 |

例

Connectorプラグインの通知で「再確認しない」を選択した場合、「環境設定」ペインで「通知をリセット」ボタンをクリックしない限り、警告メッセージは二度とポップアップ表示されなくなります。



2.2.2 Connector環境設定 - Eメール

次の表では、カテゴリ「Eメール」におけるConnectorのユーザ環境設定の概要を示します。



注: Connectorがファイルの配信をメール送信で（処理済みファイルを添付して）行うように設定されている場合のみ、これらの環境設定を変更できます。事前設定済みの配信方法を変更することはできません。変更可能なのは設定済みのメールサーバのみです。

| 環境設定 | 意味 |
|----------|---|
| SMTPサーバー | メールサーバの名前 |
| ポート | メールサーバのポート |
| 認証が必要です | 無効の場合、ユーザの認証情報は不要です。 有効の場合、ユーザの認証情報が必要になります。アカウント名とパスワードのフィールドがアクティブになり、入力する必要があります。 |



注: 「デフォルトを復元」ボタンを使用すると、変更内容を取り消したり、Connectorで設定された設定に戻ることができます。

2.2.3 Connector環境設定 - プロキシ

次の表では、カテゴリ「プロキシ」におけるConnectorのユーザ環境設定の概要を示します。



注: これらの環境設定が関係するのは、ConnectorがHTTP、HTTPS、SFTPまたはFTPを経由してファイルを配信するよう設定されている場合のみです。

| 環境設定 | 意味 |
|-------------|--|
| プロキシなし | システムのプロキシ設定は無視されます（プロキシの設定なし）。 |
| プロキシ設定を自動検出 | プロキシ設定がシステムから読み込まれます（デフォルトの設定）。 |
| 手動プロキシ設定 | <p>プロキシ設定は手動で設定されます。必要な詳細情報を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • SSLプロキシ: プロキシサーバのIPアドレス • ポート: プロキシサーバのポート番号 <p>これらの設定はシステムのプロキシ設定よりも優先して適用されます。</p> |

2.2.4 Connector環境設定 - フォルダの配信

次の表では、カテゴリ [フォルダの配信] におけるConnectorのユーザ環境設定の概要を示します。



注: これらの環境設定が関係するのは、Connectorがローカルフォルダにファイルを配信するよう設定されている場合のみです。Connectorの初回起動時に、設定された配信ポイントそれぞれに対して出力フォルダを選択するよう求められます。選択したフォルダがここに表示されます。必要に応じて変更することができます。

| 環境設定 | 意味 |
|-------|--|
| プライマリ | プライマリ配信ポイントとして使用される出力フォルダ。 |
| セカンダリ | セカンダリ配信ポイントとして使用される出力フォルダ。設定されたセカンダリ配信ポイントがない場合、このフィールドはグレーアウト表示のままです。 |

2.3 トラブルシューティング

Connectorを開こうとするとエラーが発生します。

最初に、オペレーティングシステムに合った正しいConnectorであるかどうかを確認します。Windowsは.exe、Mac OSは.appです。正しい場合、Connectorの製造元に問い合わせてください。

ファイルを送信するときに次の設定エラーのいずれかが発生します。

- **Enfocus Switch** サーバーに接続することができません。

- **FTP** サーバーに接続することができません。
- 送信ポイントがアクティブな状態ではありません。

上記のすべての場合において、選択した配信ポイントが使用できない、またはConnectorがサーバーに接続できない状態になります。これは、サーバーが使用できないか、インターネット接続がダウンしているか、サーバー側の設定が変更されたために発生している可能性があります。

最初にローカルインターネット接続を確認し、Connectorが外部と通信できることを確認してください。通信できない場合は、しばらく待機してから、ファイルまたはジョブを再送信してください。問題が解決しない場合は、Connectorの製造元に問い合わせ、表示される特定のメッセージを伝えてください。

ファイルを送信するときに「パスワードが未入力か、間違ったパスワードを提供しています」というエラーが発生します

正しいパスワードを入力して、処理を進めてください。

ファイルにはプリフライトエラーがあります。

プリフライトエラーが出た場合、次のいずれかを実行します。

- キャンセルをクリックします。ソースファイルでエラーを修正するか、PitStop ProでPDFファイルを修正します (www.enfocus.com > **Products** > **PitStop Pro**を参照してください)。Connectorに新しいファイルまたは修正済みのファイルをドロップします。
- サインオフ...をクリックして、プリフライトエラーをサインオフし、PDFがプリフライトに通るようにします。
- 続行をクリックして、ファイルの送信を続行します (Connectorの作成者が許可したファイルのみ可能です)。

詳細については、www.enfocus.comのEnfocus Webサイトのサポートセクションを参照してください。

ファイアウォールの外側で作業する - 設定上書き

外部ベンダーによって提供されたConnectorがファイアウォールの外側で動作せず、外部サーバーとの接続や電子メール通知の送信が失敗する場合があります。ネットワークセキュリティを保護し、ファイアウォールが原因の接続の問題を修正するために、Connector内でプロキシ設定および電子メール設定を調整できます。「[Connector環境設定の設定 \(オプション\)](#) 19 ページの」を参照してください。

解決されない問題がある場合

上述の解決策が発生している問題に有効でない場合は、次を試すことも可能です。

- [プロセス] > [ログを開く] を選択することによって、ログファイルを調べます。
- [プロセス] > [ログを削除] を選択して、ログファイルをリセットし、Connectorを再び使用します。
- [プロセス] > [**Connectorのリセット**] を選択して、すべてのバックグラウンドファイル (たとえば、プラグインおよび仮想プリンタのインストールファイル) を削除します。これ

により、Connectorをクリーン環境で実行可能になります。Connectorを再起動するときに、任意のプラグインおよび/または仮想プリンタを再インストールできます。

問題が解決しない場合は、Connectorの製造元に問い合わせてください。この場合、[バージョン情報]パネルに表示されるバージョン情報またはConnectorに関するその他の詳細情報を提供するように求められる場合があります。[バージョン情報]パネルを開くには、ヘルプ > バージョン情報をクリックします。